

福島県医療審議会保健医療計画調査部会 議事概要

日時：令和7年3月28日（金） 13：30～14：50

場所：杉妻会館3階百合

出席委員：委員12名中10名

（石塚委員、遠藤委員、小汲委員、河野委員、齊藤委員、佐藤（勝）委員、佐藤（博）委員、高野委員、長谷川委員、星委員）

議事概要：

（1）第8次福島県医療計画の進行管理（試行）について	
事務局	【資料1について説明】
佐藤（勝）委員	<p>2点お伺いしたい。ロジックモデルで数値を出しているが、昨年からの医師の働き方改革が始まり、それによる影響というものがあったのか、ないのかというのは、その指標である程度読み取ることができるのか。特に福島県では救急医、周産期に携わる産婦人科医、小児科医が少ないという状況の中で、救急医療、周産期医療、小児医療に対応について、医師の働き方改革による何か影響みたいなものが数値の変化に表れていることはないのか。</p> <p>例えば救急だったら搬送困難例が増加しているとか、いわゆる病院の医療供給体制が逼迫して、そういう事例が増えているんだというような数値になっているのかどうか、教えていただきたい。</p> <p>第2点目は、訪問診療についても、減少してるという数値があった。これは、地域包括ケアシステムというものを国が2025年度までに整備するみたいな話が前にあったはずだが、その中で訪問診療なり在宅診療というものを推進してるはずだが、福島県では思ったように進んでいないという現状をどのように県としては、分析されてるのか。</p>
事務局	<p>働き方改革におきまして、特にその救急病院が何か影響はないのかと御指摘でございます。今回数字の更新に当たりまして、直近の暫定値としまして6年度の救急搬送件数、困難件数の方を確認させていただいたところ、搬送件数、困難事例ともに、減少の傾向ができております。実際の医療資源の充当の部分の懸念がございましたけれども、現場といたしましては救急搬送件数並びに困難件数等に減少傾向にありますので、県民の方が今、逼迫しているという状況までにはまだなっていないのではないかというのがまず救急のお話でございます。</p> <p>周産期につきましても同じ傾向でございまして、分娩の数そのものが</p>

<p>事務局</p> <p>石塚部会長</p>	<p>今、大きな減少傾向にございまして、医療資源の取り方、非常に分娩の取扱いが減っているという状況の中からはまずと、これも同じように、逼迫という状況がさらに困難になっている、というところまでの判断がまだないという考えでございます。</p> <p>もう一つ、在宅医療、訪問診療などについて、本県取組がまだまだではないかという御質問でございます。</p> <p>実際に訪問診療の事業所数、サービスの利用件数ともに全国平均を下回っているという状況にある中で、一方で高齢化、他県に転じて、比較としまして進んでおりますので、今後、やはりこちらの部分につきましては、逼迫としてより充実点というのが必要だということ間違いありません。</p> <p>今回のこの計画のフォローアップの中で毎年毎年、数字のほう是非参考にさせていただきまして、委員御指摘の部分、国の懸念が実際に具体化しないように、個別の取組の中で対応させていただきたいと考えております。以上でございます。</p> <p style="text-align: center;">【資料2～4について説明】</p> <p>医療計画の進行管理を、引き続き、進めていただくようお願いいたします。</p>
<p>(2) 福島県外来医療計画の進行管理について</p>	
<p>事務局</p>	<p>【資料5について説明】</p> <p>(各委員から意見・質問等なし)</p>